

## 東京 IPO 特別コラム

---

2018年1月15日 Vol.109

### 早くも関心高まる2018年IPO第1号銘柄

昨年は89のIPO銘柄が登場し、それぞれに投資家の皆様の関心を集めたようですが、2018年も2月8日にマザーズ市場に上場する世紀(6234)が早くも話題を集めています。条件は1月22日、公開価格は1月30日に発表されますが、ビジネス内容は射出成型合理化機器「ランナーレスシステム」の製造販売ということで人手不足の折、合理化に寄与する設備機器だけに市場での注目度は高いと考えられます。既に同社のサイトをご覧頂いた皆さんは事業の詳細を認識されているかも知れませんが、既に業績面でもマザーズ銘柄というより東証2部、1部の実力を備えている高収益企業だと言えます。

同社は本社を米沢市に置いていますですがグローバル指向で成長を図ろうとしています。言わば地方発世界企業を標榜しています。従業員数は139名。今期の売上高は前期比15%増の36億円、経常利益は同20%増の6.3億円という見通しを掲げていますが、中間期までの経常利益の進捗率は59%と高いことから上場後は上方修正期待が高まるものと見られます。予想EPSは383円で一株当たり100円を見込んでいます。

昨年12月には画像処理検査装置のファブレスメーカーであるヴィスコ・テクノロジー(6698・JQ・公開価格4920円⇒初値15000円⇒高値43900円)や光学薄膜装置の製造・販売会社であるオプトラ(6235・東証1部・公開価格1460円⇒初値2436円⇒高値3320円)などの日本の高技術モノづくり銘柄がIPOを果たし、高い人気を集めたばかりですが、同社はこれらに続く銘柄だと言えます。一度収益水準や時価総額など比較してご評価頂きたいと思います。

2015年はカーコーティングサービスのKeeper技研(6036)、2016年はブログ広告サービスのはてな(3930)、昨年がマーケティング支援システムのシャノン(3976)が各年の最初のIPO銘柄でした。Keeper技研はIPO後も着実な成長を見せましたが、残念ながら後の2銘柄はIPO後のビジネス停滞と過剰期待の咎めもあり株価的には停滞が見られました。今年は世界市場で成長を目指すモノづくりのマザーズ銘柄からスタートしますが、皆様の関心を大いに高めるものと期待されます。

国内外の株高、低金利継続下でのマクロ経済の上向き基調など好環境、好需給に支えられ直近のIPO銘柄もそれぞれに関心が高まりIPO後の株価上昇が見られます。一方で、IPO時に過剰人気を集めた場合はその後、やや株価が停滞するという流れが見られます。このほか業態が地味な銘柄には投資家への理解不足から不人気な期間が続きます。そうした銘柄は地道なIR活動によって多くの投資家にファンになってもらうことで後から徐々に評価を高めることになると期待されます。いずれにせよ皆様の資産形成にIPO銘柄が今年も大いに貢献してくれることを祈願したいと思います。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)